

【情報公開文書】

2021年8月13日作成

Ver.1.2

研究課題名	生体肝移植後胆管狭窄に対する自己拡張型金属ステント（cSEMS）の有用性
所属（診療科等）	長崎大学病院 消化器内科
研究責任者(職名)	小澤 栄介（助教）
共同研究機関	この研究は長崎大学病院のみで実施します。
研究期間	2019年5月21日～2024年12月31日
研究目的と意義	<p>本研究は、生体肝移植後胆管吻合部狭窄に対して自己拡張型金属ステント留置術を行う患者さんの経過を過去にプラスチックステントが留置された患者さんと比較し、狭窄解除率（胆管炎や閉塞性黄疸をきたさず、ステントを留置せずに経過を追えたもの）を検討することを目的としています。</p> <p>本研究を行うことで、生体肝移植後胆管狭窄に対して内視鏡的胆道ドレナージ術や経皮経肝的胆道ドレナージ術の処置回数を減らすことが期待でき、患者さんのQOL（Quality of life）の改善に繋げていくことが可能となります。</p>
研究内容	<p>●対象となる患者さん</p> <p>1997年8月1日以降に生体肝移植を施行した患者さんで、長崎大学病院消化器内科または移植・消化器外科に通院または入院中の患者さんを対象としています。</p> <p>また、1997年8月1日～2018年12月31日の間に当院にて生体肝移植術が施行され、経過観察中に胆管狭窄を認め、プラスチックステントが留置された患者さんをコントロール群として設定しています。</p>
	<p>●利用する情報</p> <p>診断名、年齢、性別、身長、体重、BMI、生体肝移植に至った原疾患、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査）、狭窄発症までの期間、前治療の内容およびその期間。</p> <p>本研究で利用する情報について詳細をお知りになりたい場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。</p>
	<p>●研究方法</p> <p>自己拡張型金属ステントを留置した患者さんの比較群として、上記のカルテ情報を用いて狭窄解除率、再狭窄率、合併症についてデータ解析を行います。</p>
問い合わせ先	<p>【研究担当者】</p> <p>氏名：小澤 栄介（医師） 長崎大学大学院 消化器内科 住所：長崎市坂本1丁目7番1号 電話：095（819）7624 FAX 095（819）7624</p> <p>【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）</p> <p>苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）</p>